

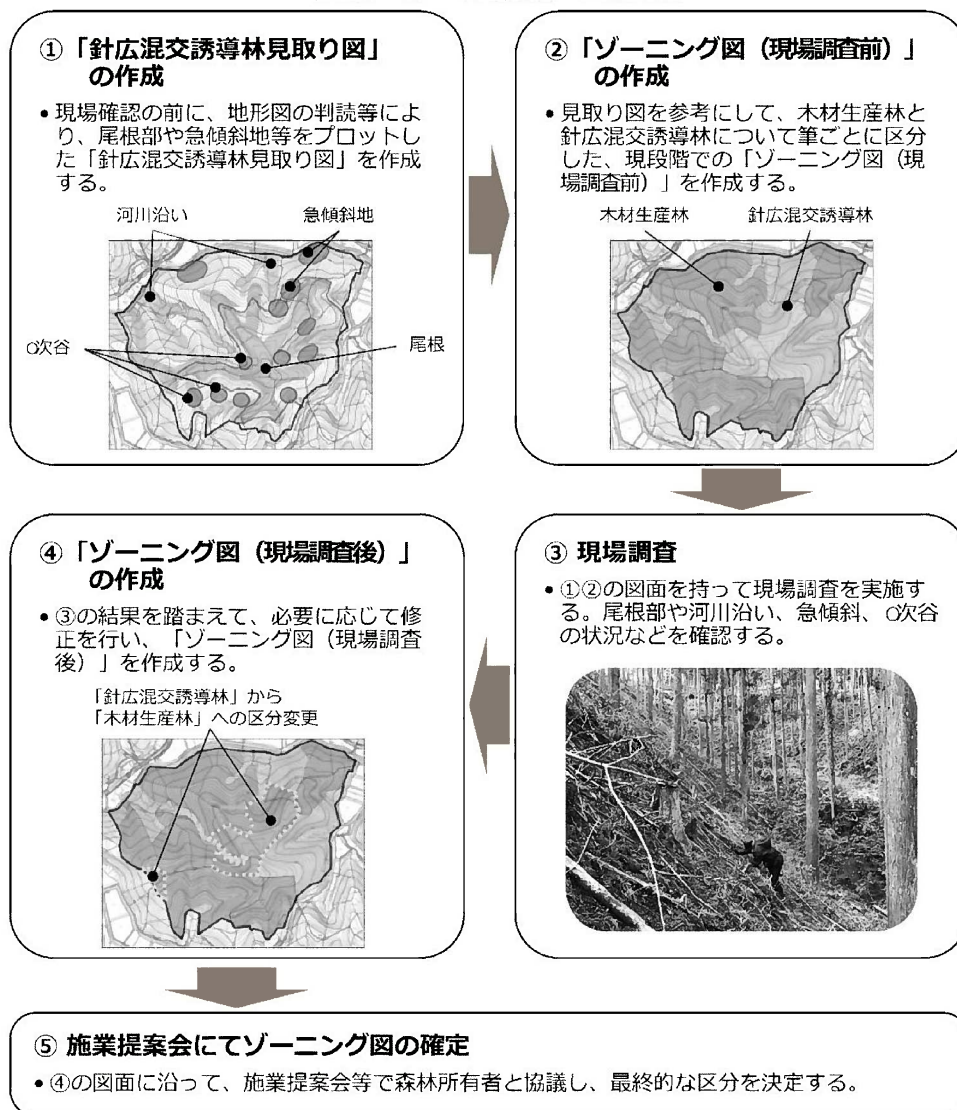
4 ゾーニングと目標林型

<現状と課題>

- ・ 森林の持つ公益的機能を最大限発揮させ、持続していくためには、立地条件や森林の状況などによって区域を分け（以下「ゾーニング」）、目指す森林の姿（以下「目標林型」）に応じた施業を行うことが必要です。
- ・ 現構想では、本市独自のゾーニングの区分と目標林型を定めていますが（構想 P12）、集約化や間伐の実際の状況とはかい離があり、実行性に課題があります。

【参考】第3次森づくり基本計画（前計画）で示されたゾーニング手法

（図表IV-6） 人工林のゾーニング手順



第4次森づくり基本計画（現計画）

取組方針

ゾーニングと目標林型の再設定およびその実現に向けた手法を構築します。

取組内容

ゾーニングと目標林型の再設定

- ・ 次期構想に向けて、これまでの集約化や間伐の状況、2008年度から実施している間伐効果のモニタリング結果のほか、様々な科学的知見に基づき、実行性のあるゾーニングの区分と目標林型を再検討します。
- ・ ゾーニングの基準は「豊田市森林保全ガイドライン（以下「保全ガイドライン」）」で示された、災害が発生しやすい地形や道路・家屋などの保全対象との距離などに基づき検討し、豊田市森林GISにより客観的に区分します。
- ・ ゾーニングの実行性を高めるため、ゾーニングの区分を豊田市森林整備計画に対応させるほか、補助制度の設計の見直しや森林整備に関する既存施策との連動を図ります。
- ・ 目標林型の林種として、木材生産の適地では針葉樹人工林の維持を検討します。また、不適地では、針葉樹人工林の維持や針広混交林化及び広葉樹林化といった林種転換について、実現性や費用対効果等の面から検討するなど、可能性を幅広く探ります。